

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600440	事業の開始年月日	平成30年4月1日		
		指定年月日	平成30年4月1日		
法人名	株式会社 葉山				
事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台				
所在地	(〒240-0017) 横浜市保土ヶ谷区花見台4-3				
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名	
			通い定員	名	
			宿泊定員	名	
	☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計	27 名	
			ユニット数	3 ユニット	
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果 市町村受理日	令和6年11月14日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://hibarien2018.wixsite.com/hibarien
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2018年4月に開設し5年目のグループホームです。
施設の近くには保土ヶ谷公園があり、お時間があるときは職員と散歩などに出かけられる利用者様も多いです。
また、当施設に入居されている利用者様は近隣に馴染みのある方が多く、昔から保土ヶ谷区内に住まっていた利用者様も大変多いです。

当施設での施設生活については、入居されている利用者様が日常生活を普通に生活できるように、利用者様個々のご自身のペースで生活できるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月14日	評価機関 評価決定日	令和6年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、JR横須賀線保土ヶ谷駅ならび相鉄線星川駅からバス便で10分～15分、最寄りの花見台バス停で下車、徒歩2分の場所にある。平成30年4月に開設された軽量鉄骨造3階建て、3ユニットのグループホームである。事業所のすぐ近くには野球場やサッカー場のある県立保土ヶ谷公園がある。地域住民との交流を考慮し、保土ヶ谷公園の散歩や近隣のコンビニに買い物へ出かけるなど、季節感を感じながら気分転換のできるように支援している。
【個別性に寄り添った支援体制】
フロアに3人の介護職員を配置し、利用者個々の要望に寄り添い支援できる環境を整備している。ユマニチュードの実践からゆとりを持って利用者本位のケアへ繋げている。面会では制限なく家族や知人との時間を楽しんでいる。外出、外泊支援も行われており、家族が利用者と自宅へ行ったり、また、外食を通して馴染みのある環境、習慣、食べ物を楽しんでいる。事業所では利用者が包丁を使用して共に調理するなど、個の強みを活かして支援を行っている。
【安心して生活できる医療体制】
利用者全員が2カ所の協力医療機関（内科）のいずれかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。介護職員や非常勤職員の看護師が、「気づき」に着目し、体調・服薬についての質問事項を確認書にまとめ、診察前に医師に渡している。診察結果は、確認書に赤字で医師の指示・助言が記載され、情報を共有している。皮膚科などの外来受診は原則、家族対応である。受診結果は家族より聴き取りタブレット内の申し送りで共有している。日頃より利用者の気づきに着目し、申し送りの徹底を図り、医療従事者と効率的な連携を行うことで利用者が安心して生活できる医療体制を整えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	あすなろ（1階）

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36, 37）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。	法人と事業所は、理念として「人が尊厳を持って普通に生活できる世界を創造すること」を掲げている。法人は、家庭的な生活を含めた6項目、事業所は、配慮ある優しい気配りを含めた4項目からなる心がける事を全職員へ周知し、サービス提供へ繋げている。理念は相談室とフロアに掲示している他、入職時に説明をしている。管理者は明確でわかりやすい事業所理念を作りたいと考えており、来年度に向け検討する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より運営推進会議が再開となり地域の行事ごとなどにお声掛け頂けるようお願いしている。今年度は目立った活動はできなかったが来年度より少しずつ参加していきたい。	自治会に加入しており、回覧板や運営推進会議の際に地域の情報を得ている。近隣の保土谷公園まで散歩に出かける時や、事業所駐車場で外気浴、日光浴時に、地域住民や交番の警察官と挨拶を交え交流している。散歩を希望する利用者には積極的に支援を行い、同時に地域交流へ繋げている。今年度は保土谷公園の梅まつりに利用者と職員が参加予定である。現在、ボランティアの受け入れができていないため、受け入れについて検討する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	②同様少しずつ地域の行事などへ参加し地域の方への理解を深めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より二ヶ月に一回対面開催を行っている。事業所の状況や取り組みなどを報告し意見をいただいている。	運営推進会議は2か月ごとに管理者、介護支援専門員、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員が出席し、昨年10月からは対面で開催している。会議では事業所の活動状況、事故やヒヤリハット、外部評価や運営指導の結果報告や情報、意見交換を行っている。家族に会議の案内をしているが、参加に至っていない。今後も継続して案内をする意向である。誤薬報告をした際、地域包括支援センター職員より再発防止徹底について意見があり全職員へ周知徹底を図った。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。	区の高齢福祉課には、管理者が運営推進会議の活動内容報告書の持参や利用者の要介護認定代行申請で、区役所を訪問した際に助言や指導を受けている。生活支援課とは、現在、担当職員が交代した際に来所があり、生活保護受給者の情報提供や相談をするなどして連携している。普段は電話連絡をしている。横浜市からのメールで介護保険改正等の各種情報を得ている。必要に応じて職員へ周知している。管理者は行政主催のBCPに関する研修に参加している。現在、グループホーム連絡会に加入していないが、今後加入を検討する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	半年に一回身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出している。参加できなかった職員は資料をお渡しし、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。	身体拘束適正化の指針を定め、マニュアルを整備している。身体拘束等適正化討委員会を3か月に1回、研修を年2回開催している。委員会では身体拘束の三原則の確認や事例検討を行っている。最近では、食事の時間に徘徊する利用者へ、職員都合で利用者に働きかける言動があり指導を行った。一昨年、離設のアクシデントがあり、それ以降、1階・2階は施錠するようになった。3階は未施錠である。夜間はすべての階を施錠している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。	虐待防止についての指針を定め、虐待防止マニュアルを整備している。高齢者虐待防止委員会を3か月に1回、研修を年2回開催している。委員会では5つの虐待について確認し、介護現場で発生しやすい不適切ケアについて事例を通して事故防止を行っている。虐待を発見した時の通報義務については、委員会や日常業務の中で管理者が周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。 説明後はご家族様に同意書をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考になっている。外部評価のアンケート結果なども活用している。	玄関に意見箱を設置しているが意見はない。家族の意見、要望は、入居時や面会、家族からの電話、外部評価のアンケートの他、介護計画の見直しによるヒヤリング時を活用し、聴き取りを行っている。現在、面会や外出、外泊について制限はない。足を骨折した利用者の家族から、治療後に歩かせてほしいという要望があり訓練を続けた結果、歩行器で歩けるまでに回復した事例がある。外出は、当日相談で可能としており、利用者は外食や馴染みの場所へ出かけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度程度リーダー会議を行っている。その中で各ユニットや施設全体での問題点などを話し合いしている。	職員の意見・提案は日常業務の会話やリーダー会議、年1回の個人面談（10月）で聴き取り運営に反映している。内容によって管理者より法人の代表へ相談している。管理者は職員個々の立場を理解し聴き取っている。職員の意見反映について、介護職員の担当フロアが定まらない、夜勤業務が続いている等の意見を反映し、管理者が1年かけて、雇用も含め勤務調整を行った事で改善が叶った事例がある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。	管理者は個人面談で把握した職員の意向や努力、成果を法人の代表へ報告している。各フロアに休憩室を整備している。有給休暇は職員の要望を交え取得できている。管理者は、自らが相談窓口となり風通しの良い環境作りに努めている。初任者研修・実務者研修・実践者研修・介護福祉士・介護支援専門員の研修受講に当たり、資格取得後、半年から1年在籍を条件に、法人が研修費用の1/2を負担している。資格手当制度があり、資格取得を支援している。育児休暇、産後休暇制度はあるが希望者はいない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとっていて、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。	管理者が講師となり、入職時研修で理念、認知症ケア、身体拘束を中心に教育研修を実施している。新人研修は、管理者が指導者となりOJTを行っている。今年度、事業所研修は身体拘束適正化、虐待防止や介護保険の仕組みに関する研修のみとなっている。管理者は職員の気持ちに配慮し、声のかけ方、言葉使いや表情に注意を払い、指導に当たっている。2月から外部研修機関のオンライン研修を活用している。来年度は研修項目を増やし学びを深めていく予定である。	現在、身体拘束適正化や虐待防止、介護保険の仕組みについての研修は実施されていますが、その他の研修が未実施であり、年間研修計画も未作成です。今後は年間研修計画を作成し、計画に基づいた研修が実施される事が期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列の訪問介護事業所と何度か連絡を取り意見交換を行う機会が2度ほどあった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に利用者様のアセスメントをさせていただき、入居後の不安を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に施設見学時や利用者様のアセスメント時にご家族の要望などを伺っている。不安点についてもその都度説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する前の利用者様のアセスメント時に利用者様とご家族の要望などを伺っている。その中で利用者様に合った支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の出来る事に目を向け、お手伝いをして頂くようにしている。 できない事には一緒に取り組むように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人様の思いをご家族にお伝えし、今後どうして行ったら良いのかを相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でしばらく規制があったが、現在はそれもなく、ご家族やご友人が面会に来られたり、外食等に家族とお出かけになっている。	入居時に家族、本人から生活状況や馴染みの関係を把握している。友人や知人の面会は、居室へ案内し、もてなしている。電話や年賀状、携帯電話充電などの取り次ぎ支援をしている。家族が持参する梅干し、バナナ、ヨーグルトなど馴染みの食べ物や化粧品の取り次ぎも行っている。昔からの習慣で新聞の購読、塗り絵、編み物、体操を継続している利用者もいる。家族対応により、墓参りをする方がいる。また自宅へ戻ったり、外食をすることで、馴染みのある環境、習慣、食べ物などを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様全員に同等に接し、お声掛けをしている為、皆様同士心配し合ったり助け合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後等もご家族様の希望に応じて、こちらでできる限りの相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は常に傾聴に努め、希望や意向を知るよう努力し、ご家族にお伝え相談するようにしている。 困難な場合は、職員で話し合い、良い方法を考えている。	初回面談時に病院や自宅などの訪問し、本人・家族から住環境、生活歴、暮らし方の希望や意向を確認している。入居後は計画作成者が日常の会話やテレビ観賞時やソファでくつろいでいる時、また1対1の環境となる入浴や夜間のゆとりのある時間に意向を聴き取っている。意思疎通が困難な方の意向は、家族や入居時面談情報、入居後の様子から推測し、支援に繋げている。買い物に行きたいと意向を反映し、今月、近隣のコンビニで買い物をする企画をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設で可能な限り継続して頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、体調管理や心身の状態を注意深く観察し、変化のあった場合は共有し、支援をしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じたカンファレンスなどで話し合いをし、どのように支援して行けばよいのかを検討している。	アセスメント、モニタリングは3か月ごとに実施し、介護計画は6か月ごとに見直している。介護保険の更新、区分変更、看取り期や体調変化が観られた場合は、利用者、家族、職員、医療機関の意見を踏まえ、随時、担当者会議を開催している。計画作成担当者により、家族は電話や来所時に意見聴取を行い、医療関係者は訪問診療時や外部受診記録で確認している。介護計画変更については申し送りノートなどを活用し周知している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット入力になり、記録の漏れ等が少なくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まずは傾聴に努め、何を求めているのかを伺いそのニーズに近づけるサービスが出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと港南台病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。 また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。	全員が2カ所の協力医療機関の医師（内科）による訪問診療を月2回、受診している。日常管理は介護士や看護師が行い、気になる事は質問事項記入書にまとめ、診察前に医師に渡している。医師の指示や助言は赤字で記載された書類で内容を共有している。歯科は希望者が2週間に1回、訪問診療を受診している。受診結果は当日、医師や歯科衛生士が記載した歯科診療報告書で共有している。皮膚科など外来受診は原則、家族対応とし、受診結果は家族より聴き取ってタブレット内の申し送りで共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。病院受診等のかかりつけの主治医と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は2、3か月を目途にベッドを空けて再入居できる体制をとっている。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などはご家族や提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしていく。	事業所はターミナルケア及び精神的ケア対応マニュアルを整備し、入居時に看取りについて事前意向確認書により意向を聴き取っている。また看取り指針を説明し同意を得ている。看取り期になった場合は、医師、管理者より家族に説明し、看取り介護の同意書を取り交わし、看取り介護計画書を作成している。協力医は24時間365日オンコールでバックアップ体制を整備している。今年度の看取り実績はないが、開所以来、看取りの実績はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は自主訓練を一回、3月に2度目の消防訓練を予定している。	年2回、日中想定防災訓練を実施している。地域住民の参加や消防署の立ち合いは実現していない。消防署に3月の訓練時の立ち合い相談をしたが、日程が合わず実現しなかった。地震、水害、夜間を想定した訓練は実施していない。BCPは作成中である。災害用備蓄品はリストを作成し、利用者と職員の食料と飲料水を2日から3日分確保している。カセットコンロなどの熱源も整備している。	日中を想定した防災訓練は実施していますが、夜間を想定した訓練は実施していません。年1回は夜間想定訓練、地震、水害を想定した防災訓練の実施することを期待します。また地域住民や消防署に働きかけ、連携を図ることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重や尊厳を重視したお声掛けをし、信頼関係が築けるように支援している。	利用者の呼称は名字または名前に「さん」を付けて支援している。介護記録は利用者を名前ではなく部屋番号で記載している。介護記録を記載する場合は、フロアの隅で行い、周囲に十分配慮している。職員間の会話は利用者と一定の距離を保ち対応している。管理者は職員の言動で気になった場合は、必要に応じて指導をしている。排泄支援など肌の露出時は、扉やカーテンを使用してプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お声掛けを常に行い、希望や思いを言葉に出来るような雰囲気作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など決まってしまうもの以外は、個人のペースや過ごし方など優先して行って頂けるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご自身で身だしなみやお化粧をなさっているが、季節外れなものを着ていたり、何枚も着られたりしている際にはご説明し、着替えて頂くような支援をしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっているのでお好みに合わせる事は不可能になっている。食事の準備や片付けは職員が行っているが、洗った食器拭きや片付けはお手伝いして頂いている。	3食ともに、主菜・副菜は食材業者の配食サービスを利用し湯煎で提供している。ご飯とみそ汁は職員が調理している。利用者は盛り付けや食器洗い、テーブル、食器拭きを手伝っている。食事形態の提供は、常食、一口大、キザミ、ソフト食に対応している。お正月などには、業者の特別食を行事食として提供している。食レクとして、利用者と一緒に海苔巻き、サラダ、サンドウィッチなどを作っている。時には利用者が包丁を使用することもある。お誕生日会のケーキを手作りで提供する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をご本人の希望などで主食等の増減をしている。水分量は記録をし、必要な量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。また、歯科往診を月に2回(ご家族・本人希望者のみ)行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の介助が必要な入居者様に対しては、お声掛けをこまめにするよう支援している。	支援を受けずトイレで排泄できる利用者が7割程いる。トイレ介助が必要な利用者は排泄パターンに基づく定時誘導や利用者の様子や仕草により、随時排泄支援をしている。トイレ誘導時は、羞恥心に配慮し、小声で、さりげなく支援している。夜間はオムツやパッドを活用し睡眠を優先し支援している。新入居者の事前情報では介助を要する状況であったが、入居後の様子から再アセスメントを行った結果、軽介助と介護軽減に繋がった事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態に配慮しながら調整を随時行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週二回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。	週2回、午前入浴を基本としている。体調や希望に応じて入浴時間や入浴日を柔軟に対応し個別性に寄り添い支援を行っている。体調が優れない利用者は、シャワー浴や清拭で対応している。入浴を好まない利用者には、入浴時間、曜日、担当者の変更や気分転換を図るなどして、支援している。季節感や雰囲気に変化を取り入れるため、ゆず湯や菖蒲湯を提供している。同性介助も取り入れ、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっているので、時々状況に応じて居室に戻られ休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや食器拭きなど入居者様の出来る事は職員と一緒にやっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近くの公園にお花見に行ったり散歩に行くよう支援している。 またご家族との外食や外出などの協力も依頼している。	天気の良い日には、近隣の保土ヶ谷公園に散歩に出かけている。玄関前の駐車場で外気浴や日光浴を楽しむ利用者もいる。家族の支援により散髪や墓参りに行く方や、外食に行きラーメンを食べる方もいる。年末から正月にかけて自宅へ外泊された利用者もいた。散歩リストを作成し、利用者ごとの外出歴を確認し、外出機会に偏りがないよう努めているユニットもある。現在、事業所主催のドライブや外出レクができていないため、支援に向け検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきた時のとりつぎや、必要に応じて電話をするように支援している。 字を書く事が少なくなり、なかなか支援が出来ていない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有スペースには季節ごとのつ飾りを入居者様と一緒に作成し張り出している。	リビングは大きな窓があり採光もよく明るい。車椅子利用に対しても十分なスペースがあり状態変化に順応できる環境となっている。温度、湿度管理は温度、湿度計を参考にエアコンと加湿器を調整している。床暖房、空気清浄機も整備している。常時一部の窓を開けている他、2、3時間おきに共用部の窓を開け換気に努めている。リビング清掃は、職員が掃除機、モップ掛けを行っている。時には利用者が一緒に行うこともある。リビングの壁には利用者と職員が作成した季節の貼り絵が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う入居者様同士の食席を考慮したりしている。 居室では、お部屋に招いておしゃべりされている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、テレビ、ベッド以外はご自身で使い慣れた家具等が持ち込まれ設置されている。	居室にはベッド、エアコン、壁掛けテレビ、クローゼット、カーテン、スタッフコールを備えている。利用者はぬいぐるみ、タンス、仏壇、家族写真、椅子、マッサージチェア、遺影など馴染みの品や思い出の品が持ち込み、個性豊かな居室となっている。リネン交換は職員と利用者が協力して行っている。自身で交換できる利用者もいる。家族の要望で転倒予防による行動把握のためセンサーを使用している利用者が3名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前の紙を貼り、トイレやお風呂場にも張り紙をし場所が分かるようにしている。		

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	ひいらぎ (2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より運営推進会議が再開となり地域の行事ごとなどにお声掛け頂けるようお願いしている。今年度は目立った活動はできなかったが来年度より少しずつ参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	②同様少しずつ地域の行事などへ参加し地域の方への理解を深めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より二ヶ月に一回対面開催を行っている。事業所の状況や取り組みなどを報告し意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	半年に一回身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出している。参加できなかった職員は資料をお渡しし、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。説明後はご家族様に同意書をいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考にしている。外部評価のアンケート結果なども活用している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度程度リーダー会議を行っている。その中で各ユニットや施設全体での問題点などを話し合いしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとっていて、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列の訪問介護事業所と何度か連絡を取り意見交換を行う機会が2度ほどあった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に利用者様のアセスメントをさせていただき、入居後の不安を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に施設見学時や利用者様のアセスメント時にご家族の要望などを伺っている。不安点についてもその都度説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する前の利用者様のアセスメント時に利用者様とご家族の要望などを伺っている。その中で利用者様に合った支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野に応じて、洗い物や洗濯物を畳まれたりなど日常生活に携わることを一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時やケアプラン更新時にご家族様より要望を確認し、ケアプラン作成時に反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などの関係が途切れないように、面会などは対応させていただいていた。 今後は制限緩和に伴い支援できる場を増やしていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士波長が合う人などは食事席などを配慮し日々の生活をしている。また、コミュニケーションなどが難しい利用者様には職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後等もご家族様の希望に応じて、こちらでできる限りの相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から得た情報や、利用者様との会話の中で得た情報などをもとにケアプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や入居時にご家族様や利用者様に確認し生活歴などを含めた情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のADLやその日の気持ちや体調に合わせて日々の支援を行っている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアーカンファレンス時に利用者様の現状の問題点や課題などを話し合い、今後の支援方法を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は毎日個別で記録している。日々の様子を記録することで状態変化や情報共有に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて利用者様やご家族と協力し、可能な限り対応できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと港南台病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。 また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。 病院受診等のかかりつけの主治医と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は2、3か月を目途にベッドを空けて再入居できる体制をとっている。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などはご家族や提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は自主訓練を一回、3月に2度目の消防訓練を予定している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各勤務帯の申し送りについてはなるべく利用者様のいない場所で行っている。利用者様の過ごされている食堂で行う場合は声量の配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は利用者様の希望や訴えに配慮できるように対応している。 小さなことでもご自身で自己決定できるような配慮は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で食事の時間や入浴日などは決めさせていただいていますが、その他の時間については本人のペースや希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者についてはご自身で身だしなみ等は行っているが、タンスやクローゼットの中が散乱してしまう利用者様もいる。毎日、居室清掃時に最低限の整理整頓は行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は職員が行っている。献立についても決まっているため、毎日好みに配慮することは現状難しい。だが、昨年度より食事提供業者を変更しメニューのバリエーションは増えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については栄養バランスが問題ない程度に本人の希望に合わせて主食量を調整している。水分量については浮腫みなどがあり医師の指示で水分制限を行っている利用者様もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。 また、歯科往診を月に2回(ご家族・本人希望者のみ)行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助者については利用者様の排泄パターンを観察し、定期的に声掛けなど行い排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態に配慮しながら調整を随時行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週二回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者様は個室での対応となっている。 日中、夜間共にご自身の生活習慣に配慮しており、特に消灯時間等は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアーに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員の利用者様ではないが、お皿洗い、テーブル拭き、洗濯物を畳むなど利用者様のできることは職員と一緒になるべくやっていたらいい。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の近くにある保土ヶ谷公園に職員と散歩に出掛けることなどできた。また、梅祭りなどに一部の利用者様は参加された。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望があればご家族様にも連絡させて頂いている。個人で携帯電話をお持ちのお客様も数名いる。 現在は3カ月に一度ご家族様に手紙を送付している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同スペースには季節に合わせた飾り物や手作りのカレンダーを掲載し、利用者様が季節感を感じれるようにしている。最近はレクリエーションなどの写真も掲載している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮し食事席などは配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室の中の物はベッドと一部家電を除き、本人持ちの生活用品をお持ちいただいている。 昔から使用しているタンスなど、在宅生活時から使用していたものをお持ちになる利用者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の居室入口には名前の張り紙をし、ご自身の居室がすぐにわかるようにしている。		

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	はなみずき（3階）

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36, 37）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9, 10, 19）		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周りの草取り・掃除を利用者様と行っている。隣人の方も一緒になることもあり、挨拶しながら行うことができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者であることを伝え、近くのカフェに出掛けお茶をした事があった。 派出所には認知症対応施設であることを伝え協力をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面ではなく会議が行えるようになった。第三者からの貴重な意見を頂き、施設では当たり前になってしまっていることに対しても気を付けなければならない事に気付かされた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への実施し、緊急やむを得ない場合を除き身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	半年に一回身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出している。参加できなかった職員は資料を渡し、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。説明後はご家族様に同意書をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考になっている。外部評価のアンケート結果なども活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度程度リーダー会議を行っている。その中で各ユニットや施設全体での問題点などを話し合いしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとっていて、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員研修に参加。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることを確認したときは施設で行える援助についてどうしていったらいいか サービス担当者会議・フロア会議を開催し、話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望を伺い、施設でどこまで対応出来るかを話し合い、ご本人様に添った支援ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の思いとご本人の今の状態が違うこともあり、ご家族の要望を受け入れつつ医療とも相談し、GHの中でできることを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の出来ないところをお手伝いしていくことを前提に、出来る事は行って頂き役割を持ち過ごせるよう支援している。 家事に積極的に参加できている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、ご本人の思いをご家族に伝え、どうしていったらよいかを相談しながら、ご家族様にもかかわって頂けるようお伝えしている。R5.3より面会・外出可能になった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ時は電話で話をする機会を提供していた。面会可能になってからは、ご家族・友人が面会に来られたり、散歩・食事・教会に連れ出して下さっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護職員が利用者様全員（身体介護・精神的介護のちがいがあがあるが）一人ひとり同等に接していれば、利用者様も困っている方に対して手を差し伸べてくださる。 お互いに誰もが助け合える介護		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様よりご連絡があれば、必要に応じてお話させて頂くが、GHでは死去・病院・次の施設に移られることが多く、現状関係は薄れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者様から得た情報で ご家族と解決すべきことはすぐに伝え相談している。その他はカンファ・フロアミーティングで検討し、ご本人の意向に添うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境など施設で可能であることはそのまま継続していただけるよう努めている。食レクで包丁を使用したり、利用者が主体で食事作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者様の体調・気持ちの揺れなど、職員が情報を共有し、支援している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング・3ヶ月ごとの担当者会議・必要に応じたカンファ・ご家族を交えたカンファで話し合いを行い、支援方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が電子化されたことで情報が途切れたりすることが少なくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は同じであるが、今まで過ごしてこられた一人ひとりのニーズに添ってサービスができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周りの掃除の時は隣人と一緒になり、話が出来ている。隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックとよこはま港南台地域包括ケア病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。病院受診等はかかりつけの主治医と相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症高齢者のため、廃用症候群にならないよう・寝たきりにならないよう家族・病院関係者と共に、出来る限り早期退院を目指している。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などはご家族や提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしている。 終末期の対する施設職員への指導がまだ不十分である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は自主訓練を一回、3月に2度目の消防訓練を予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重した支援を行わないと信頼関係が築けないと共にADL低下、廃用症候群のリスクも高まる。人格を尊重した声掛けを行うように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は利用者様の希望や訴えに配慮できるようにフロアに意見箱を設置し対応している。利用者全体のことは利用者様とのフロア会議を行っている。小さなことでもご自身で自己決定できるような配慮は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で食事の時間や入浴日などは決めさせていただいていますが、その他の時間については本人のペースや希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者についてはご自身で身だしなみ等は行っているが、ダンスやクローゼットの中が散乱してしまう利用者様もいる。毎日、居室清掃時に最低限の整理整頓は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は職員が行っている。時々は利用者様に配膳をお願いしている。献立についても決まっているため、毎日好みに配慮することは現状難しく、食レクで対応。曜日で当番を決め、後片付けをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については栄養バランスが問題ない程度に本人の希望に合わせて主食量を調整している。水分量については浮腫みなどがあり医師の指示で水分制限を行っている利用者様もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。また、歯科往診を月に2回(ご家族・本人希望者のみ)行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助者については利用者様の排泄パターンを観察し、定期的に声掛けなど行い排泄介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。排便が確認出来ない時は朝起きぬけに冷たい牛乳を飲んで頂く等工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週二回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者様は個室での対応となっている。 日中、夜間共にご自身の生活習慣・体調に配慮しており、特に消灯時間等は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアーに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お皿洗い、テーブル拭き、洗濯物を畳むなど利用者様のできることは職員と一緒にやっていたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	緊急事態宣言解除後、施設の近くにある保土ヶ谷公園に職員と散歩に出掛けている。コロナで外出できなかった期間が長く、下肢筋力の低下が著しい。ご家族にも外出の協力を依頼している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望があればご家族様にも連絡させて頂いている。個人で携帯電話をお持ちのお客様も数名いる。 時々習字をするが、字が書けなくなっている利用者様もあり、字を書く事の支援が足りていないことを都度実感している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同スペースには季節に合わせた飾り物を利用者様と共に作成したり、手作りのカレンダーを掲載して利用者様が季節感を感じれるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく穏やかに過ごせるように食事席などは利用者様同士の相性なども含めて配慮している。居室に親しい利用者を招き入れ、談話している様子も見られる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室の中の物はベッドと一部家電を除き、本人持ちの生活用品をお持ちいただいている。 昔から使用しているタンスなど、在宅生活時から使用していたものをお持ちになる利用者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の居室入口には名前の張り紙をし、ご自身の居室がすぐにわかるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひばり苑花見台

作成日 令和6年10月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事務所の理念について	全員が実践できる事務所の理念を作っていく	目標を掲げてもらい、全員が周知し実践していく。	12ヶ月
2	2	施設と地域の付き合い	地域との付き合いを増やしていく	町内会役員などへの挨拶回り。 運営推進会議の開催。	12ヶ月
3	3	職員育成の取り組み	研修や資格取得がしやすいような環境作りをしていく。	資格取得費用等の支援体制を充実させる。	12ヶ月
4	4				

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。